

①/8月

# 「小学生ケアラー」 6年生15人に1人

## 厚労省が初調査

大人に代わって日常的に  
家事や家族の世話をする「ヤ  
ングケアラー」に関する厚  
生労働省の調査で、小学6  
年生の6・5%(約15人に1  
人が「世話をしている家族

傾向も明らかになった。

家事  
(食事の準備や掃除、洗濯)きょうだいの世話や  
送り迎え

話を聞く

入浴やトイレの世話

買い物や  
散歩と一緒にいく

病院に一緒にいく 4.0

※原注: 本調査は「かみこみ」を対象とした

日常的に家族の世話や介護をする「ケアラー」は、年齢が低くなるほど「当たけ前の世話」などと自分の機能を喪失していく。学校現場では「どんな風荷ない手を握り伸ばせるか。練習が難しく」との迷いもある。重を上げないと手もまわらぬ「練習」が、教諭をケラした経験を自身の「強み」に変えていくための後押しも必要だ。

【1回】本記

# 声なき声拾い上げて

「父えてえらい」だけでは限らない

## 経験糧になるよう支援を

「教のじつけで勉強ができる  
いる」、「やめてなからなあつ  
かってほしくない」、「いつも頼  
ついい人がほしい」。厚生労働  
省が小学生を対象に初めて実施し  
たケアラーに関する調査の  
自由記述には、自分の抱えてい  
る感情や気持ち、「生憎命に任され  
よ」とかの言葉が並んだ。

友達と話がつづかない  
勉強時間がない

## 自由記述

にげ道をつくって

頼れる人ほしい

厚生労働省が4月に公表  
した小学生ケアラーの初調  
査では、自由記述欄に児童  
が心地や悪印象などを書い  
た。勉強に時間を使つ向け

●トシナ  
「たまには、ほめてもう  
えんど、がんばってどう  
気持ちになります」「ハニ  
ックになったときのきん急  
連(ハ)先作(ア)」

厚生労働省が4月に公表  
した小学生ケアラーの初調  
査では、自由記述欄に児童  
が心地や悪印象などを書い  
た。勉強に時間を使つ向け

●松本恵理子さん  
(左)と娘(右)に寄  
り添う次女(松  
本さん提供)

られないものか」と、貧困  
と親の冷感の中での勉強感。

自分のがんばりが伝わる。

児童の様子の変化に気づく

「親から感謝され本人も  
喜んでいたり、ケーブルがあ  
る」と、新規入すべきか  
と悩むのは東京都内の小学  
校の男性教師(35)。家族の  
世話や義務が過度な負担が  
せりか、判断が難しく児童  
が一定数いるとして「家庭  
を支えて貰ひ」と、親を  
視点だけではなく、変化を  
見逃さないで、子供を  
認めてしない」と語る。



●機会が多いこと思われるの  
が学校だ。各自個体は、理解促進の  
上手な教科を担当の現場の  
各個体は、理解促進の  
ため学校への出張講座などを  
をして、関係機関が連携でき

るため、体制整備も取り  
組む。たとえば、SOSをやる  
い上げて教科を担当の現場の  
教員からの直接感じの声も聞  
かれる。

●福岡市  
名古屋市の松本恵理子さ  
ん(41)は、駅舎まで車い  
す生活の長女(7)の世話を  
かかりきどりになりてしま  
った。

「あつだい」の世話をする児童は  
「いたずらをやめやめを止めると  
ために勉強時間が減ってしまう。  
夜おそくなりで勉強をじっとま  
だれかに勉強を教える」。

他の「泣きたくなれる。(なぜか。)  
と譲じた子は、家族の世話を追わ  
れて、テレビや雑誌を見る時間がな  
るかわいじめ」などの訴え

がない」と悩んでいた。がある。「相談しても「うーと  
う」という回答ばかり。「これを讀  
てもわからない」という回答がありま  
す」との配慮から、周囲のサポート  
との配慮から、周囲のサポート

との不感感や諦めがにじんだ。  
公的支援について「町の大人の  
人たちが、もう少しやねこにな  
して、ちゃんと教えて助けたり  
ほし」との懇願の聲がこぼれていた。